

貿易投資相談ニュース

2024年6月 Vol.279

多摩信用金庫 海外事業支援部 住所：〒190-8681 東京都立川市緑町3-4
https://www.tamashin.jp/



今月の見出し

1. 世界の主要ニュース
2. たましん公表外国為替相場
3. 【たましん駐在員レポート】香港の現状について



世界の主要ニュース

海上輸送の要衝、スエズ運河の問題（エジプト、世界）

エジプトのスエズ運河は、世界を代表する三大運河であり、海上輸送の要衝として位置づけられている。イエメンの武装組織フシ派が紅海などで船舶への攻撃を繰り返していることの影響により、スエズ運河を通過する船舶数が減少している。2024年5月に入っても物流混乱の影響は継続しており、通過する船舶数は大幅に減少している。国際通貨基金（IMF）とオックスフォード大学が共同開発したデータプラットフォームによれば、スエズ運河を通過した貨物船とタンカー船の通航数は、

2023年4月と2024年4月を比べると、1日あたりの平均通航数は77.9隻から35.4隻まで落ち込んでいる。スエズ運河を通過する船舶が減少している一方で、通行を断念し南アフリカの喜望峰ルートを代替に迂回する船舶は大幅に増加しているため、航海日数も長くなり燃料費が高騰し海上運賃も上がっている。スエズ運河の問題は、コストを大きく押し上げる要因となり、輸入商品の値上げなど私達の生活にも影響していくため引き続き注視していく必要がある。

好調だった香港市場3月の小売売上高が減少に転じる（香港）

香港特別行政区政府統計処は2024年3月の小売売上高を発表した。小売売上高の暫定値は312億ドルで、2023年3月比で7.0%の減少に転じた。2024年3月の小売売上高に占めるオンライン売上高の割合は7.8%であり、2023年3月比で4.7%の減少となった。主要カテゴリー別で2024年3月に売上高の減少が最も目立ったのは[時計・宝飾品・高級品]の17.7%、次いで[衣料品]17.5%、[電化製品などの耐久消費財]15.5%、

[百貨店商品]14.1%、[食品・飲料(酒類)・たばこ]11.3%が減少した。一方増加が目立ったカテゴリーは[医薬品・化粧品]が8.9%増、次いで[その他消費財]8.7%、[自動車関連]7.6%、[書籍・文具]6.8%の増加となった。香港政府の報道官はこの要因としてイースター休暇で香港国外での消費が高かったなどを挙げており、香港居住者と観光客の消費パターンの変化が課題となり得るとの見解を示している。

ジャカルタのMRT*(都市高速鉄道)の延伸計画が進む（インドネシア）

インドネシアの首都ジャカルタでは、急速な都市化と経済成長が進むなか、郊外の人口の増加に伴い郊外からジャカルタへの交通量も増加している。一方で、ジャカルタ首都圏の公共交通網などのインフラ設備は十分に整備されておらず、世界一ひどいと評される交通渋滞は深刻な環境汚染や交通事故の問題を引き起こす社会問題となっている。この問題を解決する重要なキーと期待されているのが、大量高速輸送を可能にするMRT(都市高速鉄道)計画である。日本の支援により2019年3月に中心部

から南北に走る[南北線]として最初の区間(15.7km)が開通し、毎日約10万人が利用している。しかし、問題の解消には更なる延伸が必要であり、2030年には[南北線]を北に5.8km延伸し、2031年には東部と西部を結ぶ[東西線]として新たな区間(24.5km)が開通する計画だ。これにより現状の総距離から約3倍にまで延伸していくこととなる。この延伸により、交通渋滞や環境汚染が改善され、インドネシアに多くの経済効果が生まれることが期待されている。

たましん公表外国為替相場

(2024年4月17日～2024年5月23日、TTSレート、単位：円)

日付	4/17	4/18	4/19	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/30	5/1	5/2	5/7	5/8
米ドル	155.79	155.46	155.76	155.80	155.85	155.86	156.53	156.76	157.90	158.97	157.14	155.11	155.95
ユーロ	165.91	166.22	166.17	166.42	166.53	167.33	167.93	168.57	169.57	169.86	168.78	167.48	168.04
日付	5/9	5/10	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17	5/20	5/21	5/22	5/23	最安値	最高値
米ドル	156.65	156.70	156.98	157.36	157.53	154.94	156.58	156.91	157.49	157.33	157.92	154.94	158.97
ユーロ	168.72	169.29	169.45	170.19	170.78	169.17	170.47	171.04	171.46	171.23	171.36	165.91	171.46

最新の外国為替相場はたましんホームページをご確認ください。(https://www.web-tamashin.jp/ex_rate/)



【たましん駐在員レポート】

～香港の現状について～

たましんでは、2024年4月より海外事業支援部職員が信金中央金庫・香港駐在員事務所に駐在しております。現地での活動を通じて香港の基本情報や最新の経済情勢等の調査を行い、筆者の視点でご紹介いたします。



基本情報

香港の正式名称は「中華人民共和国香港特別行政区」、面積は1,110km²、人口は約750万人です。多摩地域の面積が、1,160km²、人口が420万人ですので、人口密度は多摩地域の約1.8倍であり、世界有数の人口密集地域です。言語は中国語（主に広東語）と英語が公用語ですが、最近ではローカル飲食店の方は英語が通じないケースも多いです。

香港は東京、ロンドン、ニューヨーク、シンガポール、上海と並ぶ世界都市の1つであり、「低税率」「自由貿易」が大きな特長です。また、香港の特長として2023年の不動産価格のある統計データでは香港はニューヨークに次ぐ世界第2位にランキングされています。高さ150m以上の超高層ビルの数は香港が世界第1位です。

投資環境・政治経済の動向

2024年3月23日に施行された国家安全条例に対する海外からの警戒感が高まっていますが、在香港の日系企業で、大きな懸念を示している企業は少ない状況です。2020年6月の国家安全維持法制定以降も、香港における経済制度に特段変化は見られず、同法がきっかけによる日系企業のビジネスに直接的な影響も現段階では報告されていません。他方で、これまで中国ビジネスの統括拠点として香港の機能を活用してきた企業がチャイナリスクを意識し、中国における生産拠点をベトナムやフィリピン等の東南アジアへ一部移転する動きや、中国拠点の管轄を香港から深セン、

日本へ移管するケースが増えており、香港拠点の縮小・撤退の動きが増加しています。また、香港における日本人駐在員はコロナ禍前は約3万人いましたが、現在では1万人を下回っている状況です。

最近の香港マーケットについて

直近の香港の動向として、物価の高騰が挙げられます。円安の影響もありますが、日本と比較すると小売価格は約2倍です。



＜日本産じゃがいも 21.8 香港ドル＞



＜日本産キャベツ(1/2切)33.0 香港ドル＞

上の写真はスーパーにある日本産野菜ですが、日本円換算すると、1香港ドル=約20円(2024年5月時点)なので、じゃがいもは約436円、キャベツ(1/2切)で約660円です。(※キャベツは写真下部の価格を参照)

これは1つの例ですが、日本産以外の物も全般的に物価は高騰しています。これが今の香港の物価であり、日本と比較すると高価と感じられるのではないのでしょうか。

一方、日本産食品・酒類・化粧品などは根強い人気となっており、街中の至る所で見かけます。香港人にとって日本文化は香港の一部となっているように感じます。

日本から見る香港と香港国内から見る香港とでは印象も変わると思います。円安の影響も大きいですが、輸出企業には追い風になっています。香港を知るためにも、この機会にぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

(海外事業支援部 田中)

本ニュースは情報提供のみを目的としています。

施策実施等に関する最終決定は、ご自身で判断されるようお願い致します。また、これらの情報は当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて作成されていますが、その正当性・完全性につきましては当金庫が保証するものではありませんのでご了承ください。

本ニュースのデジタル版はこちら

